

マイナビ電子書籍・VOD比較

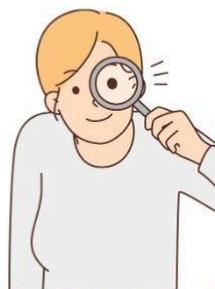
映画「死刑にいたる病」の感想調査

 「死刑にいたる病」の感想・評価を調査！



完全無料配信中！

5.0



Rさん:★★★★

連続殺人犯が同じ街の大学生にとんでもない告白をします、私は連続殺人犯です。だけど、一件だけ私がやっていない殺人があります、と。とても面白くドキドキするこの設定を日本映画のトップランナーでもある白石和彌監督がメガホンを取り、何と阿部サダヲが演じます。これだけ揃えば、面白くない訳ありません。衝撃の展開になります。

Wさん:★★★★

「死刑にいたる病」は、衝撃的な展開と心理的な深さが魅力のミステリーです。人間の暗黒面を描き出し、予測不可能なストーリーが引き込まれます。特に、キャラクターの複雑な心理描写と緊迫感のあるクライマックスがオススメで、深い感情に触れられる点が見どころです。

Aさん:★★★★

本当にありえる映画だと思いました。

見ていて気分のいいものではありませんし、実際自分の子供がされたらどうしようとか色々考えてしまう映画だと思います。

実際、日本社会にいるだろうなとも思えました。日本だけではなくそーゆー頭のおかしい人は世界にもいるだろうなとも思えました。

Sさん:★★★★

若者が連れ去られ、生きたまま爪を剥がれたり、ドリルで顔に穴を開けられたりする描写が繰り返されます。

榛村の猟奇性もさることながら、殺された子どもたちの生きた日にちが顔写真と共に書かれている恐ろしさが印象的でした。優しい榛村から悪魔に変わる瞬間に若者たちは、何を思い死んでいったのか考えただけで吐き気がする胸糞作品です。グロ耐性ない人には閲覧注意な良作でした。

Kさん: ★★★

白石監督の作品はほぼ観ていてどれも面白いので、本作もかなり期待して観ました。

正直期待値が高過ぎたかなあ、という感じ。阿部サダヲのサイコパス演技は良かったのですが、過去を振り返るスタイルの作品なので、あまりハラハラはしなかったですね。

完成度は高いですが、僕にはスリル不足でした。

Kさん: ★★★★★

狂気で衝撃すぎた。阿部サダヲさんってこんな役柄もできたんだとおもった。かなり胸糞悪いミステリーで、人間の怖さを感じる。もしかしたらこういう事件は身近にあるかもしれない。いつも何気なくみているニュースの事件はこういった人間の奥底みあるものが映し出されている。

Aさん: ★★★

小説とは少し違う部分もあり、白石監督が映画化するとこういう雰囲気になるのかと思いました。阿部サダヲと岡田健史のW主演でおふたりの演技力が素晴らしかったです...普段グロ耐性のあるものを見られない方はどうだろう...と感じます。グロ耐性ある方は全然余裕だと思います。

Kさん: ★★★★★

阿部サダヲさんが殺人犯を演じているのですが、普段はコミカルな演技をしている分、そのギャップを感じられて余計に怖かったです。あからさまに殺人犯とわかるのではなく、普段はみんなと明るく話しているのもサイコパス館を上手く出せていました。日本の映画には結構グロテスクで、ビジュアル的なインパクトが抜群なものも良かったです。

Aさん: ★★★★★

主人公が狂っていると気づいたときの恐怖心がこの映画に対してとても関心を持たせます。実際にこんな人がいそうだなと思いつつ見た時の恐怖で記憶に残る映画なのですが、出演者の演技が上手なので観ていられると思いました。

Hさん: ★★★★★

とにかく阿部サダヲの怪演が光る映画。怖さや恐ろしさとは、時には人を魅了したり引き込んでしまう何かであると感じさせてくれます。大学生の雅也を演じる水上恒司が、その何とも言えない気持ちを、スクリーンの中で見事に表現してくれて

います。前半でグッと惹きつけておきつつ、中盤以降は、雅也のルーツや終盤の展開、ラストシーンで判明する真実など、怒涛の情報量。見終わった後は、その余韻に浸ること間違いなしです。

Mさん:★★★★

とにかく阿部サダヲの怪奇すぎるサイコパス感溢れる演技に引き込まれる作品です。最初から最後まで目が離せない展開で怖いと思いつつ見ちゃうという面白さがありました。被害者が善良な少年少女であるところも阿部サダヲのサイコパスさを際立たせていたと思います。ただ現実世界である話だと怖すぎるので、現実でこんなことがあったらと考えるだけで気持ちが参ってしまいました。

Gさん:★★★★★

阿部サダヲさんの名演技に驚愕しました。人間の心理に入り込み、マインドコントロールする怖さ。翻弄されていた事に気付いた時の恐怖がものすごく伝わってきて見ている方も背筋が凍り付きました。拷問のシーンでは目を背けたくりますが、人間の感情は紙一重にコントロールされてしまう怖さを知るきっかけとなりました。

Gさん:★★★★★

残酷な現実を描いた衝撃的な作品です。監督の手腕により、サイコパスの恐ろしさが見事に描き出されています。また宮崎優さんの演技も圧倒的で、観る者を引き込みます。普段は面白い印象の阿部サダヲさんの表情も本当に怖い。作品の魅力は、人間の闇の部分に迫ることにありますが、そのためにグロテスクな描写が必要だったのかは疑問が残ります。本作は、人間の本質を問いかける記憶に残る重い作品でした。

Mさん:★★★★

一言でこの映画を表すなら良い意味で「胸糞悪いサイコサスペンス」です。それだけ映画の世界観が作り込まれていて見る人を引き込みます。見れば見るほど阿部サダヲ演じる
榛村大和は最後の最後まで「サイコパスだな」と思わせる人物でしたが、実際に殺人をしている人と知らずに喋ったら「彼はいい人で優しい人」って誰でも言ってしまいます。
とても人の感情の部分を考えられた映画です。

Gさん:★★★★

阿部サダヲさんが個人的に好きな俳優さんなので、主演している作品は結構みていたので、こちらの映画も面白そうだしと思って見ていたのですが、ちょっと私にはグロテスクなシーンもあつたり、不気味な感じもあつて目で覆いながらみる形でした。

グロいのや不気味な感じが苦手な方にはあまりお勧めできない作品です。

Eさん:★★★★

主人公が連続殺人犯との手紙のやり取りを通じて、真実に迫る過程がとてもスリリングでした。特に、犯人の心理描写がありあるで、個人的にとってもおもしろかったです。読者を引き込む緊迫感ある展開と、予想外の結末が待ち受けており、最後までとてもたのしかったです。

Jさん:★★★★

私は「死刑にいたる病」の一番の魅力は主演の阿部サダヲさんの演技だと思います。普段は人当たりがよく、誰からも好かれる一方で少女少女を次々に惨殺していくサイコパスシリアスキラーを見事に演じています。黒目がとても大きいです。エンタメスリラー映画として名作だと思います。

Lさん:★★★★★

すごくゾクゾクしました。ストーリーがだんだん面白くなっていくというか、どういうことなんだろう、こんな良い人がなんで犯罪をおかしたのだろうと、興味がでてくるんです。人の人格ってその人の一面を見ただけでは分からないし、良い人だからって信用してはいけないというか、もしかしたら信用できるなと思った頃が一番危ないのではないかなと考えさせられました。

Mさん:★★★★★

まずは白石和彌監督なのでグロ描写がすごいです。私はグロ描写が苦手なのでところどころ目を塞ぎながら鑑賞しました。犯人役のアベサダヲの演技も不気味でマッチしています。伏線を回収していく脚本が面白く、なかなか先が読めない展開だと思います。衝撃のラストは賛否が分かれるところだと思います。私は面白かったです。

Yさん:★★★★★

狂気の阿部サダヲを観たい人にはとにかくオススメです。サイコ・サスペンスと阿部サダヲの相性が良すぎます。対話の中で少しずつ追加されていく情報に翻弄され「もしかしてこうかな?」「もしかしてこうなのかな?」と想像を巡らせながら観ていくのにどんどん裏切られていきます。冒頭のシーンに戻ったときには本当に鳥肌が立ちました。

Tさん:★★★

残酷な日本らしいグレーな背景で描かれた作品でした。

主役の阿部サダヲさんはいつもはコメディで明るい印象の俳優さんでしたが、今回は全く真逆のサイコパスの殺人鬼の役で、あの阿部サダヲさんの大きく真っ黒な目がとても印象的で、いまだに忘れられません。そして水上恒司さんとの、心理戦も見どころのひとつです。サイコパスの洗脳に苦悩し飲まれても、戦う演技も素敵でした

Qさん: ★★★

原作のサスペンス小説もかなりのダークでしたが、映画で見ると事件のグロさがより際立ちますね。

ダークなテーマとストーリーなのでPG12指定と気軽に見れる映画ではないかもしれませんが、ラストにゾクリとくる結末はクセになりそうです。

大量の殺人事件を起こしながら、1件だけ冤罪を主張する死刑囚の真意が劇場を後にしてようやく理解できました

Nさん: ★★★

何はともあれ、阿部サダヲは凄い役者さんでした。ドラマの設定や展開に関しては既視感をぬぐえないのですが、阿部さんの演技に導かれてどんどん画面に引き込まれていきました。おそろしく鬱展開な内容を、淡々と進行させる白石和彌監督の”静かな”演出は、これまで担当した他のイヤミス系の作品同様にキレが良く、阿部さんの演技と相まってこの作品と、とても相性が良かったように感じました。

Sさん: ★★★★

サイコパスを題材にしたお話なのですが、結構ゴア表現が多かったのが、苦手な方は注意が必要です。お話としては、結構重め。どんより重くなる感じなので、良い意味でこの重さがたまらなかったです。お話も死刑をテーマにしているの、いろいろと考えさせられることが多く、全て見ていく中でいろいろな感想が湧き出てくるような感覚になりました。

Cさん: ★★★

まずタイトルから内容が気になりはじめて見てみたのですが、内容が面白く引き込まれるという点を全体に私には少しグロさがきつかったです。また視覚的なしんどさに加えてあと引くシーンがあります。(私が拷問シーン等が苦手なので)

Tさん: ★★★★★

まず、阿部サダヲさんの演技が素晴らしく、表と裏の姿を完璧に演じ分けていて怖かった。一時期サイコパスという言葉が流行ったが、こういう人のことを指すのかなと思った。最後の事件について調べ始めるが、もう何が真実で何を考えていて、どんな意図なのかもわからなくなっていったし、真の狂気を感じた。

Sさん: ★

平穏な日常が悪意によっていきなり壊れることがあるんだなと恐ろしく感じました。人当たりがいい人でも本音はわからないとも思いますが、そんなふうにしてすべての人を疑ってかかるのはよくない気がします。犯人の犯行がとても残忍で、まともに見ることができませんでした。残酷なことをする犯人にまったく感情移入できず、不快さが募るばかりで後味の悪い作品でした。

Yさん: ★★★★

倫理と正義の狭間で揺れる人間ドラマを描いた作品です。主人公が法と感情の葛藤に直面しながら、死刑制度の問題に向き合う姿が深く心に残ります。緊張感あふれるストーリーテリングと複雑なキャラクターたちの絡みが、視聴者を引き込む力強さがあります。社会問題をテーマにしつつも、個々の人間ドラマが際立っており、考えさせられる内容です。

Tさん:★★★★★

今年見た映画で個人的にはNo. 1面白いにあたります。阿部サダヲの演技力がひかり、おちゃらけた役が多い彼が演じるサイコパスな殺人鬼に翻弄される人間模様を描いた作品に時間を忘れて、没頭すること間違いなしの作品です

Sさん:★★★★★

本当のサイコパス映画ですよ。

本当に怖かったです。

ホラーより怖いです。

阿部サダヲの演技も素晴らしいですよ。

サイコパスになりきっています。

近所に笑顔振りまいて、愛想よくて、一見普通の人に見えても、裏ではあんなに残忍なことをしてるなんて、恐ろし過ぎます。

あれはもう一度は見れないほど、恐怖を感じました。